

## 市電 1601 型 1644 号車輛 1 輛

### 市電 1601 型 1644 号車輛

しでん 1601 がた 1644 ごうしゃりょう

#### 分野／部門

有形文化財／歴史資料

#### 所有者

大阪市高速電気軌道株式会社

#### 所在地

大阪市住之江区緑木 1

#### 紹介



大正 9 年から昭和 4 年にかけては、第 1 次大戦が終わり、商工業がますます盛んとなった。交通量も増大し市電を利用する乗客数も激増し、市内の路線網はこの時期にほぼ頂点に達した。路面電車の黄金時代ともいうべき時期である。大量輸送の必要性から、市電の型式もそれ以前の中小型車輛では輸送力が不足となり、大型車輛が必要となったことから、1001 型、1081 型、1501 型、1601 型などの大型車輛が、合計 430 輛、製作された。

1601 型は大阪市電最初の鋼鉄製大型低床ボギー車で、台車は“大阪市電型”と呼ばれており、住友製鋼(現住友金属)の製造である。当時としては画期的な鑄鉄製のウイングバネ式全コイルスプリングが使用されており、乗り心地の良いものであった。

全長 13,171mm、車幅 2,488mm、高さ 3,267mm、自重 16.33t、定員 90 名である。主電動機は AEG 製 50 馬力 2 台で、制御装置はエアブレーキである。サイドパネルが鉄板でスマートになり、リベットレスの車体など、新様式を採用している。また制御装置、主要電源、軸受けなどに最先端の技術が取り入れられていた。

この 1601 型式の車輛は昭和 3～4 年にかけて 100 輛が製造されたが、現存するのはこの 1644 号車のみである。この車輛は昭和 4 年(1929)に梅鉢鉄工所で製造され、戦災で被害を受けたが、昭和 23 年に復旧された。昭和 31 年に片側 3 箇所であった出入口扉が 2 箇所に改造され運行されていたが、同 41 年(1966)に廃車されたものである。

市電の黄金時代を代表する型式の車輛として貴重である。

#### 参考文献

大阪市交通局編『大阪市交通局五十年史』(大阪市交通局 1953)

大阪市交通局編『大阪市交通局七十五年史』(大阪市交通局 1980)

大阪市電編集委員会編『大阪市電－路面電車 66 年の記録』(鉄道史資料保存会 1980)